

What makes Legislative Attention: Institutional Characteristics of Political Attention

Yuki TSUJIMURA

Date

Introduction

既存の政策が変化する要因をめぐっては多くの議論がなされてきた。

Jones と Baumgartner による一連の分析 (Baumgartner and Jones 2010, Baumgartner, Berry, Hojnacki, Leech and Kimball 2009, Baumgartner and Jones 2020) は政策変化の容態を描き出す上で非常に有益な枠組みを提示した。Baumgartner and Jones (2010) は政策が強い固着性を持ち、一定期間の安定性と突然の急激な変化によって特徴づけられることを指摘した。こうした現象が生じるメカニズムとして、安定性を持った政策領域に新しい対立の観点がもたらされ、それが政治空間全体に広がることによって急激で大規模な変化が生じると論じた。(Baumgartner and Jones 2010) このような過程として政策変化を論じる見方は断続均衡理論として知られ、政策変化に対する重要な見方として位置付けられている。(Howlett, Ramesh, Perl and Others 2009, John 2018)

しかしながら、断続均衡理論は「なぜ政策は変化するのか」に対する回答を提示するものの、「特定のタイミングで、なぜ特定の政策のみが重要な争点となり、変化をもたらすのか」という問題に対して十分な回答をもたらしたとは言えない。(John 2018) この点をめぐり、さまざまな視座から検討がなされてきた。これらは大別すると、外性的要因による説明と内生的要因による説明とに分類することができる。外性的要因に着目する分析では、自然災害などの焦点となる要因によって特定の政策領域に注目が集まるとする議論 (Birkland 1997, 1998)、外性的要因が政治的連合の変化 (Sabatier and Jenkins-Smith 1993) や有権者の関心の変化 (Bertelli and John 2013) をもたらすことで特定の政策領域が注目されるとする議論などがある。内生的要因に着目する議論としては知識の更新によって政治的状況の変化を説明する議論 (Baumgartner and Jones 2010) などが存在している。

このように、どの政策領域が注目を集めるのかという問題は、多くの理論的立場が存在する一方で、特に議会をめぐって経験的な知見は十分に蓄積されてきたわけではない。例外的に Jones and Baumgartner (2004) は、議会において特定の政策領域に対してどの程度注目が集まるかを分析し、その動向が有権者の関心と一致していると指摘している。しかし、この分析は政策領域への関心の変化を扱っており、法案単位で分析を行なっているわけではない。

本稿では、議会における政策過程を対象として、政策変化をもたらすと考えられてきた「法案が重要な関心をもたれる」という現象がいかなる要因によっても

たらされてきたかを分析する。

Literature

Policy Process & Focus Point

政策過程研究において、特定の政策領域が注目されることの重要性は多くの先行研究において指摘されてきた。

Focus Point in the Congress

議会において、「法案が重要な関心をもたれる」という現象は、大きく二つの研究領域において検討されてきた。第一には政策過程論の文脈であり、いかなる法案が注目されるのかを外生的・内生的な要因から説明する試みである。第二に、議会研究の文脈では「どの法案が真剣な議論の対象となるのか」という問題設定から議会内政党に着目した分析が蓄積されてきた。

第一に、政策過程研究において特定の領域が注目されるアジェンダ・セッティングの議論が存在する。

第二に、議会研究においてどの法案が検討されるのかを問題にする、アジェンダ・コントロールの議論が存在する。アジェンダ・コントロール論において重要な問題関心は、議会内政党がどの程度まで影響力を行使しうるのかという問題であり、政党指導部が強い影響力を有するという立場 (Cox and McCubbins 2005, 2007) から議会内において重要なのは政党ではなく議会における中位投票者の立ち位置であるとする議論 (Krehbiel 2010) までさまざまな理論的立場が示されている。近年の実証研究の見地では中位投票者による説明を支持するもの (Gray and Jenkins 2019) から両者の存在を指摘するもの (Crosson 2019)、議会内政党の影響力を強調するもの (Clark 2012) までさまざまである。

これらの議論は、議会において法案が注目される過程とその要因を説明する上で有益な視座を与える。しかし、重要な課題も存在する。

第一に、アジェンダ・コントロール論では、議会内における法案の動向を十分に把握することは困難である。例えば、アジェンダ・コントロールが発揮されるか否かは

第二に、より重要な問題として、

Theory

では、議会において特定の法案が重要視されるためには、いかなる条件が必要だろうか。第一に、議会研究の文脈では法案は議会指導部によって多数派政党に都合の良い形でスクリーニングされると考えられてきた。

Hypothesis

Data & Method

分析には、

Result

Discussion

Conclusion

References

- Baumgartner, Frank R and Bryan D Jones (2010) *Agendas and Instability in American Politics, Second Edition*: University of Chicago Press.
- (2020) *The Politics of Information*: University of Chicago Press.
- Baumgartner, Frank R, Jeffrey M Berry, Marie Hojnacki, Beth L Leech, and David C Kimball (2009) “Lobbying and policy change,” in *Lobbying and Policy Change*: University of Chicago Press.
- Bertelli, Anthony M and Peter John (2013) “Public Policy Investment: Risk and Return in British Politics,” *Br. J. Polit. Sci.*, Vol. 43, No. 4, pp. 741–773, October.
- Birkland, Thomas A (1997) *After Disaster: Agenda Setting, Public Policy, and Focusing Events*: Georgetown University Press.
- (1998) “Focusing Events, Mobilization, and Agenda Setting,” *J. Public Policy*, Vol. 18, No. 1, pp. 53–74.
- Clark, J H (2012) “Examining parties as procedural cartels: Evidence from the U.S. States,” *Legislative Studies Quarterly*, Vol. 37, No. 4, pp. 491–507.
- Cox, Gary W and Mathew D McCubbins (2005) *Setting the Agenda: Responsible Party Government in the U.S. House of Representatives*: Cambridge University Press.
- (2007) *Legislative Leviathan: Party Government in the House*: Cambridge University Press.
- Crosson, J M (2019) “Stalemate in the States: Agenda Control Rules and Policy Output in American Legislatures,” *Legislative Studies Quarterly*, Vol. 44, No. 1, pp. 3–33.

- Gray, T R and J A Jenkins (2019) “Pivotal Politics and the ideological content of Landmark Laws,” *J. Public Policy*, Vol. 39, No. 1, pp. 115–142.
- Howlett, Michael, Michael Ramesh, Anthony Perl, and Others (2009) *Studying public policy: Policy cycles and policy subsystems*, Vol. 3: Oxford University Press Oxford.
- John, Peter (2018) “Agenda formation and change,” in *Handbook on Policy, Process and Governing*: Edward Elgar Publishing.
- Jones, B D and F R Baumgartner (2004) “Representation and agenda setting,” *Policy Stud. J.*, Vol. 32, No. 1, pp. 1–24.
- Krehbiel, Keith (2010) “Pivotal politics,” in *Pivotal Politics*: University of Chicago Press.
- Sabatier, Paul A and Hank C Jenkins-Smith (1993) *Policy change and learning: An advocacy coalition approach*: Westview press.